

# お薬を何種類飲んでますか？きちんと飲めてますか？ ～ポリファーマシーとは～



常陸大宮済生会病院 外科消化器科医員 松浦 博和

高齢者では治療薬や症状を緩和するための薬剤の処方が増加し、多剤併用になりやすい傾向があります。現在、65歳以上の約3割、75歳以上の4割が5種類以上の薬剤を処方されており、75歳以上の25%が7種類以上の薬剤を処方されています。

皆さんは何種類のお薬を飲んでますか？それは本当に必要なお薬ですか？飲み忘れや飲み間違いなくきちんと飲めてますか？

## <ポリファーマシーとは>

ポリファーマシーという言葉聞いたことがあるでしょうか。ポリファーマシーとは、“poly” + “pharmacy”で、そのまま日本語にすると“多剤服用”という意味です。しかし、多剤服用そのものが悪いわけではなく、多くの薬を服用することにより副作用などの有害事象を起こすことを特にポリファーマシーと呼びます。

何種類以上という定義はありませんが、5～6種類以上が目安となります。必要以上の医薬品を使用することにより以下のような問題点が起こる場合に見直しが必要になります。

### 問題点

- ・薬物有害事象の増加（ふらつき、転倒など）
- ・薬剤費の増加
- ・飲み忘れ、飲み間違いの増加（服薬遵守の低下）

## <ポリファーマシーの原因・改善策>

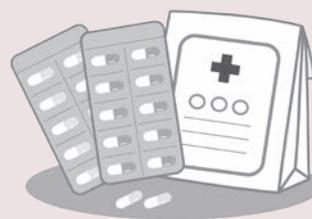
新たな病状が加わる度に新たな医療機関又は診療科を受診していると、それぞれ数種類の処方でも足し算的に服用薬が積み重なり、ポリファーマシーとなることがあります。

薬剤の処方状況を把握することや、又は薬局の一元化、お薬手帳の活用などが、ポリファーマシーの解消に期待されています。

## <残薬の問題>

ポリファーマシーと同様に残薬も大きな問題となっています。75歳以上の残薬は、年間およそ475億円に上ると推測されています。日本全体としては1000億円以上の残薬があるとも言われています。お薬の残りを捨てたりしていませんか？

ご自身やご家族の内服薬はいかがでしょうか？気になる点がありましたら、お気軽にかかりつけや薬局にご相談ください。



※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院救急患者受入状況

